

平成25事業年度に係る経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した事例

	開催日	経営協議会学外委員の意見	意見への対応
1	平成23年3月29日	山越運動場を整備して地域との連携を図ってほしい。	教育・課外活動に支障のない範囲で、整備が完了したサークル棟を平成26年度から地域住民にも開放することとした。
2	平成24年6月21日	国際交流の対象としているアジア・アフリカ地域における中心となる国との交流が重要である。	アフリカにおいてはモザンビーク共和国を中心に連携を進めており、平成26年1月にも安倍総理がアフリカ歴訪した際、安倍総理立ち会いの下、本学とルリオ大学、同国教育省及び国際協力機構(JICA)の四者による協定を締結した。また、今後も交流を活発化するため、長期で教員を派遣することとした。
3	平成25年3月28日	国際人として活躍するには、英語力に加えて、人間関係を作る力、自分の郷土や相手の国、日本人を語れるなど、様々なことを知っていることが必要であり、俳句が盛んな松山にある大学として、その環境をつくっていったほうが良い。	俳句に造詣の深いファンロンパイEU議長の出身大学であるベルギーのルーヴァン・カトリック大学と学術交流協定を締結し、一層の国際交流に資することとした。
4	平成23年6月28日	○東日本大震災の発生に伴い、防災対策の提言や活動状況を地域に発信してほしい。	◎平成22, 23年度は500人規模だった「えひめ防災フォーラム」を平成24年度は1,000人収容のホールで開催(出席者約900人)、平成25年度は3,000人収容のホールで開催(県知事、県下市長、町長を含む約1,700人が出席)した。また、大規模災害の発生を想定し、初動体制及び復旧計画などを明確にした「愛媛大学業務継続計画」を策定するためのワーキンググループを役員会のもとに立ち上げ、平成25年3月に業務継続計画(BCP)を策定するとともに、平成26年3月には改訂版を策定し、役員会や教育研究評議会を通じて教職員に周知を行い、防災意識の向上に努めた。
5	平成23年6月28日 平成25年3月28日	○経費の抑制や省エネルギー対応に取り組んでほしい。	◎耐震改修の際には、LED照明やペアガラス、省エネタイプのエアコンを導入するなどして、積極的に経費の節減や省エネルギー対応に努めた。また、四国の国立大学と連携し、トイレトペーパーの共同調達を実施した。(昨年度までに重油、コピー用紙の共同調達を実施済み)なお、現在のところ、第2期中期目標・中期計画中の目標である一般管理費の比率を3%未満にすることが達成できる見込みである。

※No.4,5は前年度からの継続的取組